

金沢市議会意見交換会

金沢美術工芸大学 について



平成28年2月24日(水)

1. 大学の概要

- 配付資料 1を参照ください

①施設の概要

本館棟 昭和47年竣工で、**40年以上経過**
→ 一番新しい工芸実習棟でも、**20年以上経過**

②平成27年度の運営予算

総額 13億2,700万円強
収入 運営費交付金 8億4,600万円強
→ **運営費の3分の2が市民の税金**

1. 大学の概要

- 配付資料 1を参照ください

③教員・学生数

教員 64名、学生 学部生635名、大学院生91名

→ **小規模な大学**

④学生の進路

美術科 **約半数が就職**、残りが大学院進学、作家活動

デザイン科 大学院を含めた総数で**80%を超える就職率**

2. 大学の歴史(略歴)

- 昭和21年11月 本多町3番丁(※)に**金沢美術工芸専門学校を設立**
※現在は出羽町
- 昭和30年4月 **金沢美術工芸大学(4年制)を設立**
- 昭和47年10月 **小立野5丁目11番1号に新校舎完成**
- 昭和54年4月 大学院修士課程(絵画・彫刻専攻、産業デザイン専攻)設置 ※昭和55年4月 大学院棟完成
- 平成9年4月 大学院博士後期課程(美術工芸専攻)設置
- 平成12年4月 大学院修士課程再編(絵画専攻、彫刻専攻、芸術学専攻、工芸専攻、デザイン専攻設置)
- 平成22年4月 **公立大学法人金沢美術工芸大学に移行**
- 平成26年3月 柳宗理記念デザイン研究所開設

3. 現在の大学（法人化）

○学校教育法

- ・地方公共団体が直接に大学を設置することを認めている

○地方独立行政法人法（平成15年制定）

- ・運営の基本などの制度の基本事項を定めるもの
→ これに則って設立される大学法人が「**公立大学法人**」

○法人化の現状

公立大学法人前橋工科大学（前橋市設立）、
秋田公立美術大学（秋田市設立）など中核市では7市7校
石川県立大学、石川県立看護大学（以上、石川県設立）など
県では、34都道府県55校

- 多くの公立大学が**公立大学法人へ移行**している

3. 現在の大学（法人化）

○地方独立行政法人法

【共通】

・出資

設立団体は、地方独立行政法人（以下、法人）の資本金の額の
2分の1以上に相当する資金その他の財産を**出資しなければ
ならない**

・定款

地方公共団体は、法人を設立しようとするときは、その**議会の
議決を経て**定款を定めなければならない

・地方独立行政法人評価委員会

設立団体に、法人に関する事務を処理させるため、執行機関の
附属機関として、地方独立行政法人評価委員会を置く

3. 現在の大学(法人化)

○地方独立行政法人法

【共通】

・中期目標

設立団体の長は、法人が達成すべき業務運営に関する目標(中期目標)を定め、当該法人に指示するとともに、公表しなければならない
→ 設立団体の長は、中期目標を定めるときは、評価委員会の意見を聴くとともに、**議会の議決を経なければならない**

・業務に関する料金

料金の上限を定め、設立団体の長の認可を受けなければならない
→ 設立団体の長は、**認可の前に議会の議決を経なければならない**

・交付金

設立団体は、法人に対し、その業務の財源に充てるために必要な金額の全部又は一部に相当する金額を交付することができる

など

3. 現在の大学(法人化)

○地方独立行政法人法

【公立大学法人のみ(特例)の主なもの】

○大学又は大学及び高等専門学校の設置及び管理を行うこと
以外の業務は行なってはいけない

○法人理事長が設置する**大学の学長を兼任**する

ただし、定款の定めによって法人理事長とは別の学長を任命することができる

→ ・1つの法人で2以上の大学を運営することが可能

・国立大学法人が一法人一大学となっていることと大きな違い

○学長の任期は、**2年以上6年を超えない範囲内**において、当該法人の規程で定める

○中期目標の期間は**6年間**とする

など

3. 現在の大学(法人化)

- 中期目標と中期計画

設立者（金沢市）が議決を経て中期目標を設定し、大学へ指示

大学は目標具現化のための中期計画を立て、設立者の認可を受けて実施

- 第2期中期目標（平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間）

- 基本目標

学部教育の充実、国際交流の拡大と国際的水準の研究の計画的な推進、市民、地域に開かれた大学を目指すとともに、自由で多様な独創性を実現する大学院教育の改革を目標とする

- 法定事項に関する目標

- ・大学の教育研究等の質の向上に関する目標

学生の適切な選抜、積極的、計画的な入試広報の実施のほか、大学院改革を踏まえた研究実施体制の構築と研究環境の整備

- ・その他業務運営に関する重要目標

策定中の新キャンパス構想を具体化する など

4. 議会での質問応答

①大学の法人化について

・平成24年6月 大学経営のあり方について

市民の思い、議会の意思も反映できる美大であるために、学長と理事長は分離し、理事長は設置者たる市長が就任すべきと思うが、どうか

・経営と教育研究の一体的合意形成、迅速な意思決定などの観点から望ましいという議論を経て、学長が理事長を兼ねている

・評価委員会にて、円滑な組織運営が図られていると評価されているので、今の体制で進めていきたい

4. 議会での質問応答

①大学の法人化について

・平成27年3月 公立大学移行の評価について

公立大学法人に移行して5年が経過し、本市との関係にやや距離ができたとの声も聞かれるが、公立大学法人移行についての評価を聞く

・今まで以上に魅力ある大学づくりや教育研究の活性化などの大学改革が進んでいると評価している

・改めて議会に対し丁寧に継続的に情報を伝えていきたい



4. 議会での質問応答

②作品の公開等について

・平成23年12月 卒業記念作品について

卒業記念作品を購入しているが、日の目を見ていないので、売却して教育資材を購入し、学生に役立てるか、公的機関や病院、まちなかなどへ貸し出してはどうか

・学術的な意味合いから、特にすぐれた作品を大学で保有しており、売却は考えていない

・貸し出しには、今後も積極的に対応していくと大学側から聞いているし、市としても作品の有効活用を促したい



4. 議会での質問応答

②作品の公開等について

・平成27年9月 柳宗理デザイン研究所について

研究施設としての
成果がわかりにくい
が、その成果について
どのように捉えている
のか

著作目録等のデータベース
化が進められるとともに、
初期の陶器作品について
実施した調査の報告書作成
が進められるなど、一定の
成果が上がっている



4. 議会での質問応答

③施設の老朽化等について

・平成24年6月 全面改築について

建物も相当老朽化しており、
美大の全面改築について
検討すべき時期であり、
移転改築なのか、現地在
改築なのかを含めて、大学
の設置者たる市長の所見
は

将来にわたるキャンパス
プランの検討を始めて
いるところで、その議論も
踏まえ、老朽化し、手狭に
なっている校舎のあり方
について、今後、研究を
進めていきたい



4. 議会での質問応答

③施設の老朽化等について

・平成27年3月 移転について

美大のキャンパスを工学部跡地に移転させる方向で検討に入ったことを表明したが、美大の移転、建てかえに対する意気込みを聞く

・重点戦略計画において、金沢大学工学部跡地を美大の移転候補地として検討することを明記した

・地元の皆さんの意見をしっかりと聞き、大学関係者とも意見交換を重ねながら、利活用計画が策定できるよう、県と協力して検討を進めたい

4. 議会での質問応答

③施設の老朽化等について

・平成27年3月 積立金について

金沢美術工芸大学施設整備積立金を創設し、3億円の積立金を予算計上しているが、目標期間、目標金額は決めているのか

キャンパスプランを見ながら詰めていかなければいけないが、財政負担の均てん化を図るために、基金の目標額は15億円としている

5. 今後の大学(課題)

- 老朽化した建物の建てかえ
 - 狭隘な学習環境の改善
 - 金沢大学工学部跡地への移転
- ➡ **新キャンパス構想を策定し課題解決へ**

平成27年12月定例会議会での総務常任委員会における執行部の報告

①キャンパスの課題

- 現行施設は昭和47年に建築されたことから老朽化が著しい
- 学生数や保管作品の増加により教室等が不足している
- 段差などの箇所が多く、バリアフリー対応が困難なこと など

②旧金沢大学工学部跡地への移転が望ましい理由

- 世界の交流拠点都市金沢重点戦略計画において、文教地区にふさわしい施設整備を目指し、**金沢大学工学部跡地への移転検討が示された**
- 現在地と同じ小立野地区に立地し、地域活性化に取り組むことができる
- 平たんな土地形状から機能的な施設配置が実現できる など

5. 今後の大学(課題)

平成27年12月定例会議会での総務常任委員会における執行部の報告(続き)

③新キャンパス構想の基本理念

- 芸術系の最高学府として、技能や知識の習得を行う
 - 深い人間力の形成や感性を磨き上げ、世界に通じる人材の育成
 - 金沢市立の公立大学として美術、工芸、デザインの高度な研究の推進や地域社会への貢献
- **これらを通じた知と創造の拠点を目指す建学の精神を継承**

④新キャンパスの目指すべき方向性

- 金沢のものづくり産業との連携による地域の産業、文化振興への貢献
- 美術、工芸、デザインの各分野において、まちの活性化に貢献
- 海外作家の招聘や大学間交流、留学生支援の充実
- 21世紀美術館などと並ぶ新たなランドマークとなるような創造的建築外観を持つキャンパスとすること など

5. 今後の大学(課題)

平成27年12月定例会月議会での総務常任委員会における執行部の報告(続き)

⑤既存施設の拡充整備と新たに必要とされる機能

- ・安全で快適な教育研究環境を保持するための**施設改善や耐震性の確保**
- ・各種教室や作業スペースの確保
- ・誰もが安心して利用できる**ユニバーサルデザインに配慮した施設整備**

⑥新たに必要とされる機能

- ・大学が所蔵するすぐれた美術作品や学生の作品などを公開できる**美術館**
- ・世界に開かれたキャンパスに必要な**国際交流センター**
- ・映像表現、アニメーション等の産業や未来志向のメディア芸術に対応できる能力を持つ人材を育成するための**メディアセンター**などの機能

今後の予定

学内での策定作業を進め、**年度内に**金沢美術工芸大学新キャンパス構想を策定して、美大理事長から設立団体の長である**市長に対し提出する予定**